

③

地黄湿地（豊能郡能勢町）

文・写真 湯浅 淳子(歌垣SATOYAMA楽舎)

地黄湿地は周辺林から供給される水と花崗岩由来のシルト質により維持されている滲水湿地です。かつて里山が薪炭林や農用林として利用されていた時代には、湿地環境も自ずと維持されていましたが人工林への改植や里山林の放置により、水やシルトの供給の減少、日照の阻害等により湿地特有の多様な動植物が衰退していきました。1996年、地元を中心に「地黄湿地保全委員会」を設立、1998年には「大阪府緑地環境保全地域」に指定、保全のための整備や調査が始まり、一時は日照環境も大きく改善されましたが、2006年ウシガエルの侵入もありハッチョウトンボの生息が確認できなくなりました。2014年大阪府が「生物多様性ホットスポット」（ランクB）に選定。「地黄湿地再生保全検討会議」を設置し2015年より「地黄湿地再生・保全3ヵ年事業」がスタート。森林整備・水や日照環境の再生・保全活動が続けられたことにより、トキソウ、サギソウ等の希少な湿地性植物が復活し始め、2020年には14年ぶりにハッチョウトンボの生息が確認されました。2021年に再び「上記検討会議」が始動し、さまざまな作業が行われています。



春から夏の観察会



植生調査の様子

④

本山寺の森林（高槻市原）

文・写真 常俊 容子(NOB)

本山寺は役小角開祖770年頃創建の山岳寺院。周辺のモミ・ツガ・アカガシ林は大阪では唯一のまとまった暖温帯の植生であり、希少性、学術的価値より「大阪府自然環境保全条例」で1978年「自然環境保全地域（特別地区）」（14.32ha）第1号に指定されました。その際に毎木調査に当たった故堀田満氏(当時協会理事・京大)も本誌にエリアの魅力をイラスト付きで紹介しています。(図上)「ポンポン山区域」として大阪府立北摂自然公園にも指定されており、東海自然歩道のルートで、ともに環境省自然環境基礎調査で「特定植物群落」として選定されている神峯山寺周辺のシイ・カシ林から本山寺のモミ・ツガ林(図下)まで、植生の垂直分布が見どころです。

哺乳動物はシカ、イノシシ、キツネなどお馴染みの顔ぶれの他、ムササビも確認されており、ツキノワグマ出没注意の看板も…

北摂の他地域同様、シカによる森林生態系へのインパクトは大きく、2010年より植生保護柵を設置し実生モニタリングを実施しており、柵内外で林床植生に差が出てきているのが観察できます。



詳細はサイト参照



本山寺エリアの魅力(イラスト:堀田満)



本山寺のモミ・ツガ林